

欠席連絡の自動対応 外国語で操作する仕組みも

議会公質疑

解説

児童・生徒の保護者から学校が欠席や遅刻の連絡を受けるに当たって、自動で対応する仕組みが試みられている。教職員の負担軽減が主な狙い。日本語に苦手感がある外国籍の保護者への対応という側面もある。

これまで、遅刻や欠席が多い学校で朝の時間は電話への対応や、連絡帳の確認に追われる実態が各地にあった。横浜市教委は、ひとまず、自動で連絡を受け付けることで、朝の出席確認業務を軽減す

ることとした。1年間にわたって、このシステムを試行する。英語、中国語、スペイン語の音声を用意し、日本語があまり理解できなくても操作できるようにした。

同市教委によると、運用を始めたところ、保護者側からは、前日のうちに欠席連絡を済ませられることなどが好評という。

長野県塩尻市教委では、電子メールで欠席を連絡する仕組みを導入

千葉・流山市

平成31年 2月21日

野田 宏規議員

事務の効率化図れる

塩尻市では、学校における働き方改革として、児童・生徒の欠席をオンラインで連絡できるシステムを導入しているが、本市でも導入してほしいかがか。導入すれば教員が忙しい時間に電話対応等する必要がなくなると事務の効率化が図れると思う。

塩尻市では少し課題も多いようなことは伺っているが、これだけ機動力のある流山市であれば可能

を確認している。

このことから、現在のところオンラインでの欠席連絡のシステムを市内小・中学校に導入することは考えていない。

電話も重要、二段構えで

先ほどオンラインだけではとかが、そういった表現があったが、個々に対面とか電話ということも非常に重要だと思っているけれども、二段構えで電話対応とかもするし、ICTを活用してそういった自動的に処理もすると、そういった二段構えにすることによって効率も増すし、むしろ安定して運営ができるのではないかなというふうな気もするが、そういったことに関しての答弁を願いたい。

研究を進めたい

学校教育部長 まず、先ほどのオンラインだけではということについて、その二段構えでということだが、こちらについては、教職員の負担軽減効果の高い事業についてはやはり幾つか取り上げてやっていくことも必要かなとは思っている。他の自治体の取り組み等を注視しながら、その負担軽減の高い事業については今後研究を進めてまいりたい。(議事録を要約)

【次回は7月6日付掲載】



特別支援学校の経て青少年教育勤める筆者の井(先頭)

登山の途中で、め、職員と登頂していた。仲間先に到着し、遅延を応援するた張れー」と大きく励ました。

「絆」「感動」「仲間」「協力」などの言葉は広く使われる。しかし、これらを本当の意味で子どもたちに学んでもらうためには、自分で体験することがいかに大切であるか、乗鞍青少年交流の家(岐阜・高山市)での勤務を通して実感できた。

夏休み期間中に、8泊9日の日程でアドベンチャーキャンプという事業がある。小学校5、6年生が参加する。このキャンプで、ある女子児童が

体験から学ぼう

教員編 ②1

連日20時ほどの日程では、暑さと体苦しさの中でも仲間緒にお互いを励ましながらかつて乗り切ることができた。キャンプ中に読からの手紙には、生